

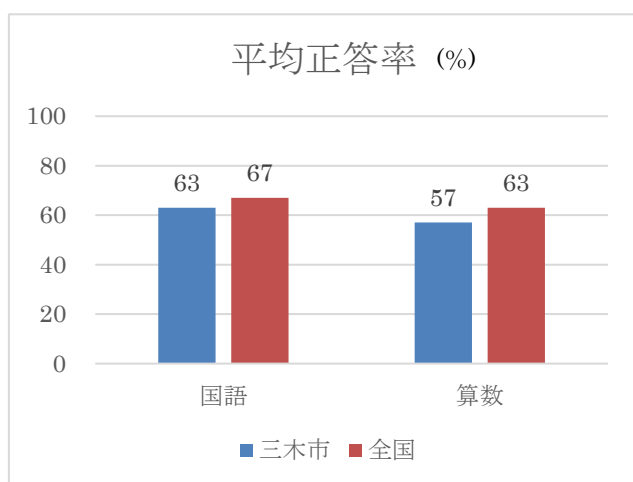
令和5年度三木市における 全国学力・学習状況調査の結果



三木市教育委員会

令和5年4月、全国学力・学習状況調査が行われました。この調査は、児童生徒の学力・学習状況等を分析し、一人一人の子どもの学びと育ちを把握し、三木市の教育の改善を図ることを目的としています。掲載している調査の内容は、実施教科が特定の教科のみであることや学習指導要領全体を網羅するものでないことから、学力や学習状況の一部ではありますが、この結果を授業改善や家庭と学校との連携のあり方等について考えるきっかけとして活用し、主体性・協働性・創造力の育成を図っていきたいと考えています。

小学校の結果



国語

「読むこと」において、正答率が全国と比べ下回る傾向にあり、無解答率が高い問題もあった。(※以下は正答率が下回った主な問題)

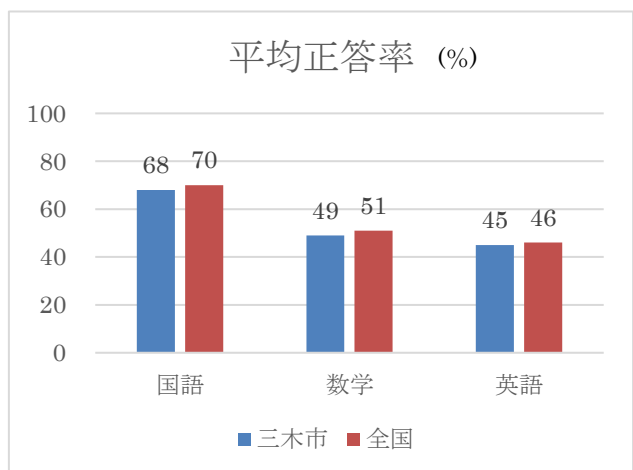
- △目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなど必要な情報を見つけることができるかどうかをみる問題
- △文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題

算数

「数と計算」「データの活用」の領域において、正答率が全国と比べ下回る傾向にあり、無解答率においては、大きな差はなかった。(※以下は正答率が下回った主な問題)

- △二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる問題
- △(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる問題

中学校の結果



中学校については、各教科の成果と課題を次のように表記しています。◎:成果(身につけている力) △:課題(身につけたい力)

国語

- ◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。
- △文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。

数学

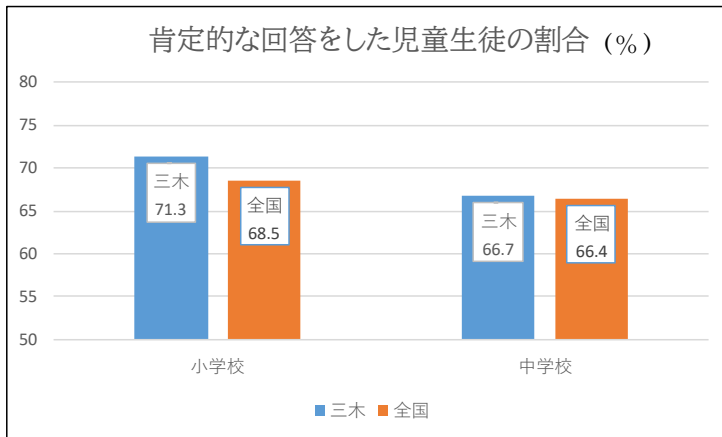
- ◎反比例の意味を理解している。
- △結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見出し、説明する。

英語

- ◎文と文との関係を正確に読み取ることができる。
- △社会的な話題について、短い文章の要点を捉える。

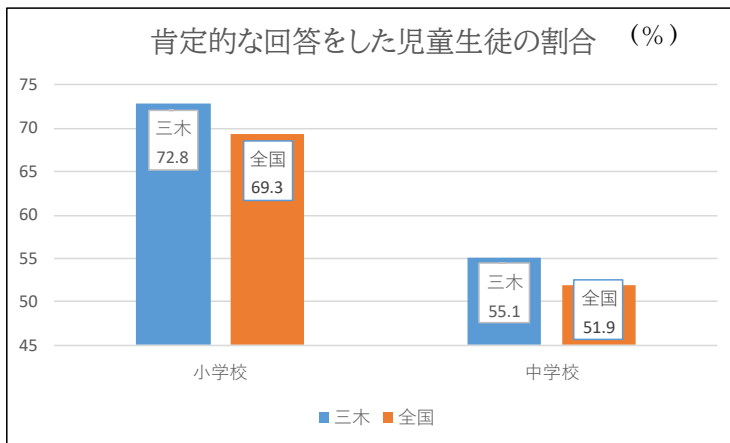
質問紙調査の結果から

○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談ができますか。

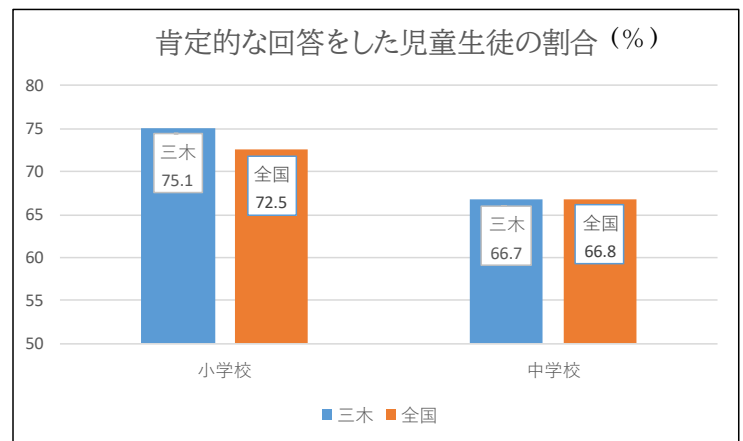


「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒は、全国より少し多い傾向にあります。自分を理解してくれる人がいるといつでも話やすく、安心感につながっていきます。一人一人の気持ちや状況に寄り添った関わりを通して、児童生徒の自己の成長と学びにつなげていきます。

○英語の勉強は好きですか。

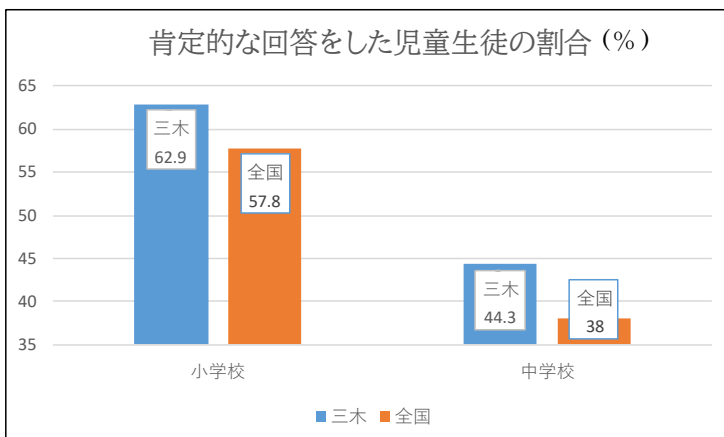


○外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っていますか。



上の2つの質問では、肯定的に答えた児童生徒の割合は、全国と比べて多い傾向にあります。さまざまな国の文化や交流を通して、いろいろな考えに触れる中で、国際的な視点を持った探究的な学習に生かします。

○今住んでいる地域の行事に参加していますか。



今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒が多い傾向にあります。地域の人々と交流する中で、子どもたちが体験的に学ぶ機会を充実させていきます。

三木市の子どもたちの学びに向かう姿勢 ～何をどのように学ぶか～

三木市がめざす子どもたちにつけたい3つの力

主体性

自ら考えて行動する力

協働性

協力し合って成し遂げる力

創造力

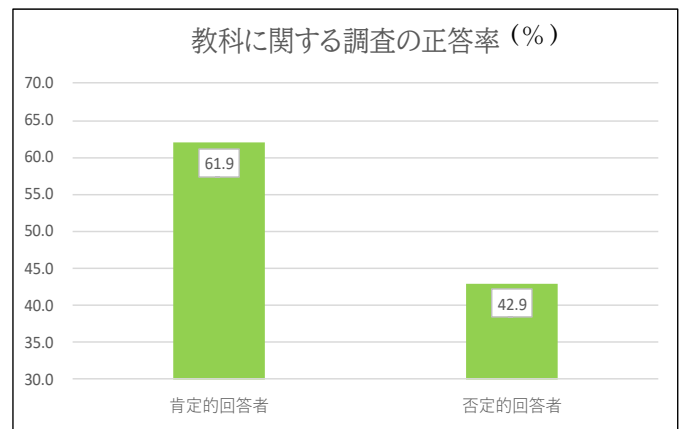
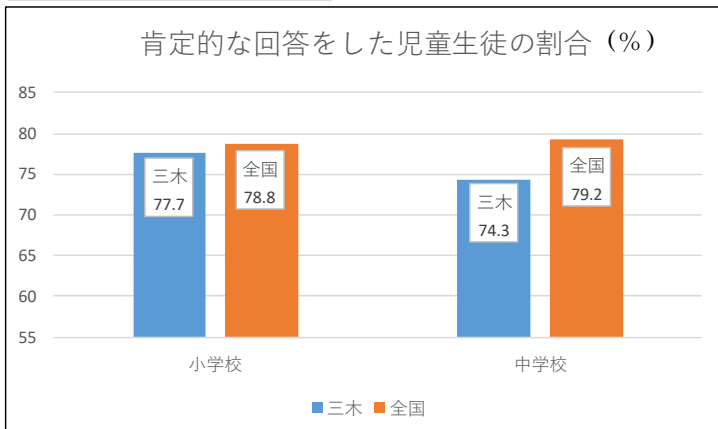
新たな価値を創り出す力

自分のやりたいことを自分で見つけ、それを実現するために探求していく力を育みます。

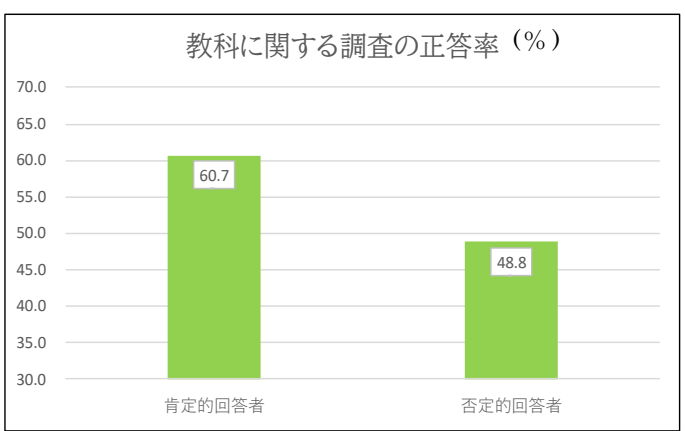
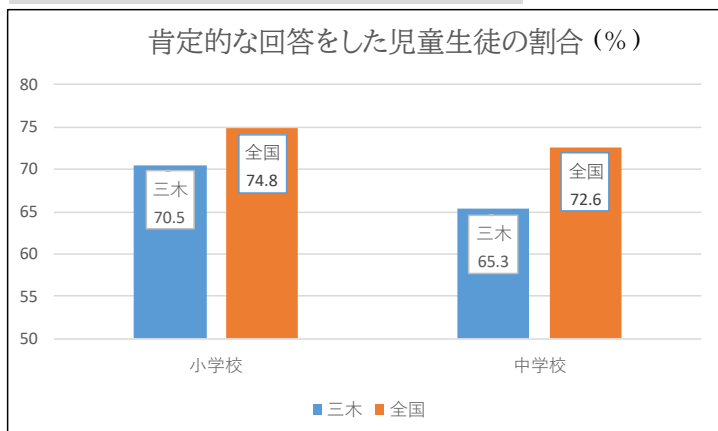
三木市の教育では、上の3つの力を育てています。そのうちの主体性・協働性において、質問紙調査から以下のことがわかってきました。

主体性に関わる質問項目について

○5年生(中学2年生)までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



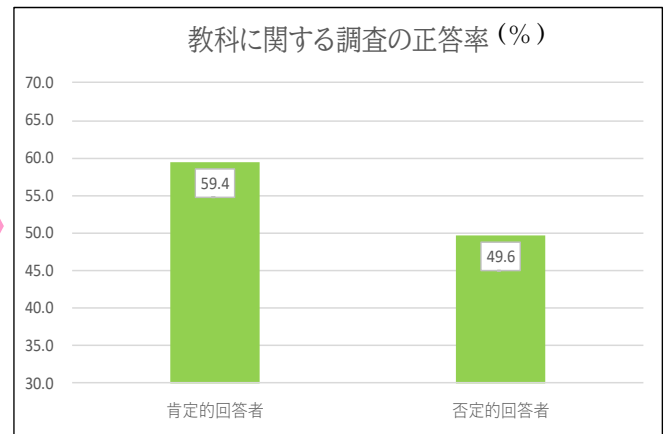
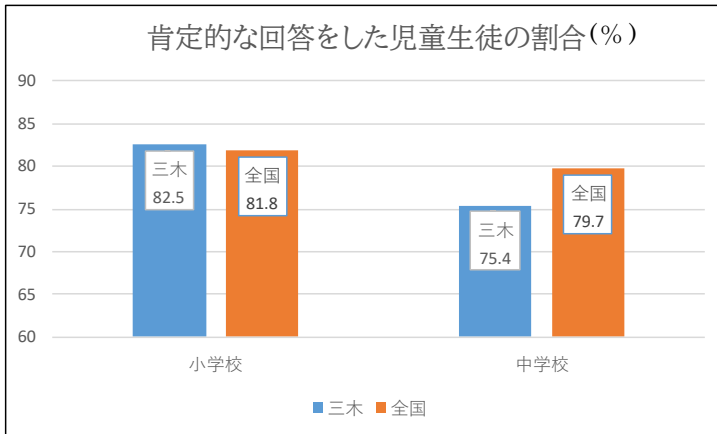
○総合的な時間では、自分の課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



上の2つの質問では、肯定的に答えた児童生徒は、否定的に答えた児童生徒より教科に関する調査の正答率が大きく上回る傾向がありました。自ら課題を立てて考えたり、調べたりし、それを伝えるといった主体的な学びは、さまざまな角度からの理解や応用力へとしっかりつながっていることがわかります。肯定的に答えた児童生徒の割合が全国より下回っているため、学ぶべき目標を明確にした主体的な学びの推進に取り組んでいきます。

協働性に関わる質問項目について

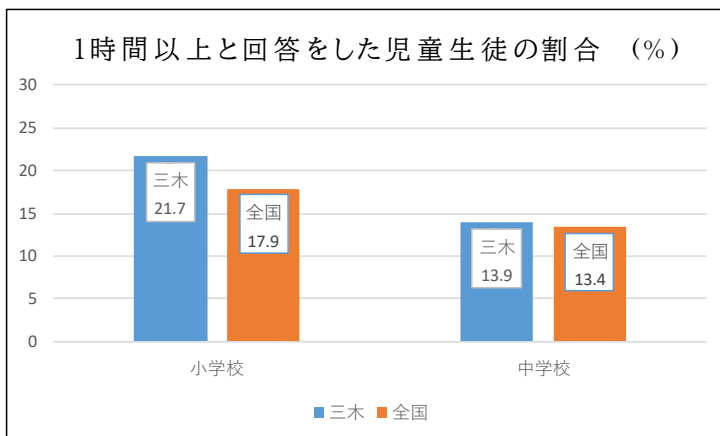
○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。



協力し合って成し遂げる力についても、前ページの結果と同じく、肯定的に答えた児童生徒の方が、否定的に答えた児童生徒より教科に関する調査の正答率が大きく上回る傾向がありました。話し合い活動により、お互いの知識を共有することで、異なる視点やアイデアが生まれ、より深い理解へとつながっていきます。肯定的に答えた割合が、小学校では全国より少し高く、中学校では、下回っている傾向が見られました。話し合い活動をより充実させるため、効果的に ICT を活用するなど積極的に取り組んでいきます。

ICT の活用に関わる質問項目について

○学校の授業時間以外に、普段、一日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか。



学校での端末活用が増え、児童生徒が端末を家庭に持ち帰って学習に使用する割合も全国より少し上回る傾向になっています。ICT 機器を学習のツールと捉え、必要な情報を効率的に収集し、自己の学習や意見共有等に自らの判断で活用できる力を育てていきます。

「教わる」から「学ぶ」へ学び方のスタイル変えていきます

★一人一人の興味や学力に合わせた学びを進めます。

★仲間や様々な人の考えを取り入れ、よりよい学びを生み出します。

★タブレットを活用したドリル型教材など

★タブレットを活用した調べ学習などの探求型

★話し合い、意見発表、共同制作など

★三木市の資源を活用した体験的学習